

ブリヂストン 久留米工場 環境レポート 2009

みなさん、こんにちは。

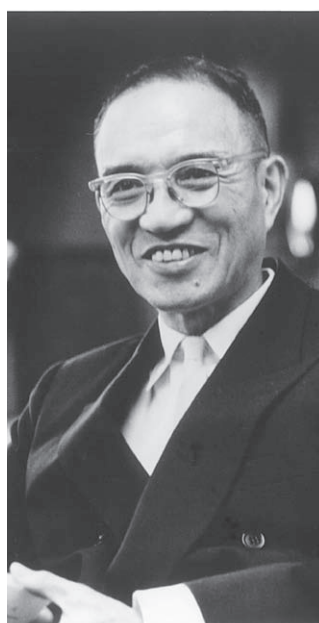
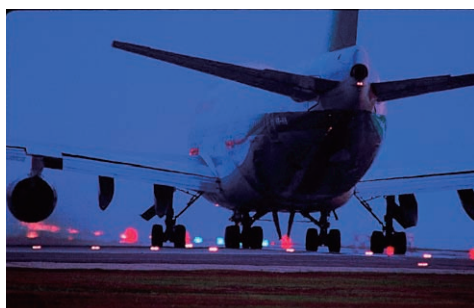
みなさんはブリヂストン久留米工場で何が作られているかご存知でしょうか。また、周辺環境が破壊されていないかなど、不安なこともあるかと思います。

そこで今回、ブリヂストンのインターンシップ生として私が、より客観的な立場で久留米工場を隅から隅まで調べてきました。また、創業者石橋正二郎と久留米の関係についてもまとめました。このレポートを通じて、地域の皆様に少しでも久留米工場のことを理解していただければ幸いです。

ブリヂストン2009年度インターンシップ生 カドノフユキ 門 信行

【目 次】

- 工場長へのインタビュー…………… 2ページ
- 久留米工場環境方針、久留米工場環境データ…………… 3ページ
- 久留米工場では何が作られているのでしょうか…………… 4ページ
- 環境により良い製品を目指して…………… 4ページ
- 工場と環境について…………… 5ページ
- 地域貢献活動について…………… 6、7ページ
- 久留米市街地マップ…………… 8ページ



工場長へのインタビュー

2009年9月に、久留米工場で工場長にインタビューを行いました。環境への取り組みや、地域貢献について、久留米工場の考え方を聞きました。



インタビューの様子

Q 地球環境問題の解決策として久留米工場の環境への意識と取り組みについて教えてください。



A 環境問題については、日本は典型7公害に始まり、現在では地球環境問題がよく取り上げられています。久留米工場でも積極的に取り組んでいきたいと思っています。環境活動については、リスク低減などマイナスの側面の改善と地域との接点強化といったプラスの側面の推進があると考えています。

まず、マイナスの側面の改善として地球環境の観点からは、コ・ジェネレーションシステムの導入による大気汚染防止・CO2排出量削減に寄与しています。燃料についても、環境負荷の少ない天然ガスを導入しました。

産業廃棄物処理についても、2004年7月から完全ゼロ・エミッションを達成しており、現在では産業廃棄物を100パーセント活用出来るよう心掛けています。

地域環境については、久留米工場では排水管理に特に力を入れています。久留米工場に隣接している九州一の大河川である筑後川はブリヂストンにとっても、また久留米市の市民にとってもなくてはならない存在であり、排水により筑後川を汚れてしまっはいけません。よって法律や条令よりも厳しい社内管理基準を設けて監視測定を実施し、環境汚染を未然に防ぐよう管理を強化しています。

Q 久留米工場の地域貢献活動について教えてください。

A 久留米工場では、環境活動のプラスの側面として地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。

久留米工場独自の活動としては、市内の小学校に桜の木の寄付活動を行っています。小学校の桜が少なくなっていることから、工場が表彰などで頂いた賞金を地域に役立てようと始めました。現在は21校の小学校に寄付を行い、2009年末には35校になる予定です。47校すべてに寄贈することを目標にしています。

また、工場見学会は定期的に行っていますが、現在建て替え工事が行われている第一工場は地域住民の方がより見学しやすいように設計されており、将来的にはより住民の方々が理解しやすい見学会を実施するつもりです。

他にも、従業員により構成される吹奏楽団による定期演奏会の実施や、市内の清掃活動など様々な取り組みをしています。

Q 今後、地域住民の方とどのような関係を築いていきたいとお考えですか。

A 先程、環境活動においてはマイナスの側面の改善とプラスの側面の推進があるといいましたが、私自身、プラスの側面のほうがより重要であると考えています。地域のみなさんの力なしに環境活動は行っていけないからです。地域のみなさんには久留米工場の御意見番となってもらい、一緒に悩み、考え、行動していきけるような関係を築いていきたいと考えています。

久留米工場環境方針

久留米工場は、環境を保全する事が企業の社会的責任の中でも、たいへん重要である事を理解するとともに、“ブリヂストン発祥の地”のみならず“九州一の大河「筑後川」の河畔に立地している工場”という自覚を持ち、“未来の子どもたちが安心して暮らしていけるために…”の基本理念の下、TEAMS (Total Environmental Advanced Management System) を基盤として全員参加で以下の環境活動に取り組みます。

1.お客さまに満足して頂ける工場を目指します

- 創業者の理念である”最高の品質で社会に貢献”を使命として、環境と安全に配慮した製品をすべてのお客様に信頼され、愛され、自らも誇れる品質とコストで提供出来るよう、努めます。

2.環境にやさしい工場を目指します

- 環境にかかわる法を遵守するのみでなく、より厳しい自主環境基準を設定するとともに適正な操業と管理を実施し、環境事故及びクレームをゼロにするよう努めます。
 - 地球環境の視点より省エネルギー、省資源、リサイクル活動を推進するとともに、工場緑化及び工場内や周辺の整理・整頓・清掃に積極的に取り組みます。
- また、再編リニューアルにおいては、ソーラーシステムの導入・自然光の活用など環境に配慮したシステムの導入に努めます。

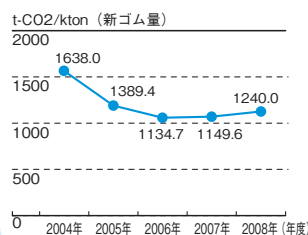
3.地域に調和した工場を目指します

- 社会貢献活動（市内小学校への桜の木寄贈、清掃・美化活動、ちょボラ募金など）及び地域行事へ積極的に参加する事で、地域社会とのコミュニケーションの充実を図ります。
- 行政及び市民の皆様を始め、すべての人々の意見・要望に常に耳を傾け、一般の人が希望する場合は、「久留米工場環境方針」を提供します。

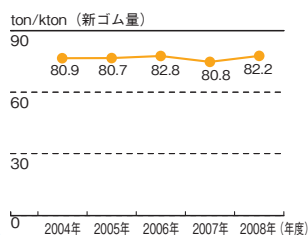
上記全活動を実践するに当たり、ブリヂストングループの一員として地球温暖化防止のためにCO2を中心とした温室効果ガスの排出削減に努めるとともに、ISO14001活動の精神である継続的改善を常に意識し、全員参加で「更に上」を求め、環境保全の維持・向上を図るため、活動の「見える化」を推進します。

久留米工場環境データ

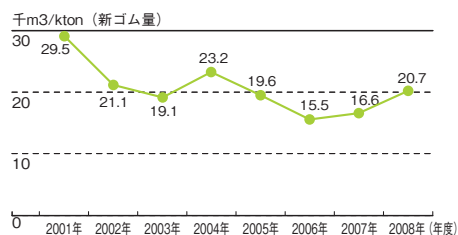
CO2排出量原単位



廃棄物発生量原単位



水使用量原単位

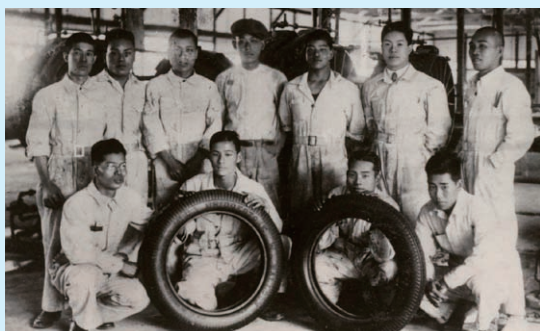


● 久留米工場では何が作られているのでしょうか ●

色々な種類のタイヤを作っています。

久留米工場は、ブリヂストンの国内で最初のタイヤ工場として、タイヤの国産化を使命に1931年、操業を開始しました。現在では、当社のマザープラントとして、乗用車用、小型トラック用、トラック・バス用タイヤなどの一般的なタイヤだけでなく、航空機用、レーシング用、農業機械用、産業車両用等の各種タイヤなど、幅広い種類を生産しています。

久留米工場で生産される製品は、日本をはじめ、世界中の人々へ届けられています。



久留米工場で生産された第1号のブリヂストンタイヤ



操業当時の久留米工場

環境により良い製品を目指して

みなさんは、世界中の座席数100席以上の民間飛行機の約四割はブリヂストンのタイヤを使用していることをご存知でしょうか。

久留米工場で作られている航空機のタイヤは航空機の重量と速度を支えながら離着陸を繰り返すという過酷な条件下で使用されるため、非常に高度な技術力を有します。

また、航空機のタイヤは過酷な条件下で用いられているにもかかわらず、使用回数はリトレッド(すり減った部分にゴムを貼りなおす)することで約1400回のフライトに使用することが出来ます。これにより、省資源(原材料の使用量削減)と廃タイヤの削減に貢献できます。



工場と環境について

久留米工場では、環境に対して様々な対策を実施しています。

CO2排出量削減のための取り組み

タイヤを作るには大量の電力と熱が必要です。しかし、これらのものを別々に作ると効率が非常に悪く、多くのエネルギーを必要とします。そのため、久留米工場では2005年に電力と熱を同時に作れるコ・ジェネレーションシステムを導入しました。これは、CO2排出量を約23%削減できるだけでなく、使用エネルギーも削減できるものです。また、燃料はC重油から天然ガスへ転換したことで硫黄酸化物の発生がなくなりました。



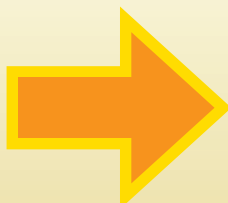
コ・ジェネレーションシステム

廃棄物ゼロを目指して

ブリヂストンでは、産業廃棄物の最終処分量（埋立て）を低減するゼロ・エミッション活動が行われており、久留米工場でも2004年7月に最終処分量をゼロにする完全ゼロ・エミッションを達成し、その後も継続しています。また、久留米工場では産廃処理センター「エコセンター」を設置し、廃棄物を約300種類に分別し、分別後はリサイクルのために回収してもらっています。これにより、久留米工場の産業廃棄物は100%再利用がなされています。



工場に出た廃棄物



リサイクルで作られたタコ壺(一例)

筑後川を守るために

久留米工場は水の管理に一番気を使っています。対策としては、国が定める基準値よりも厳しい管理基準値を設定し、常時監視を行うことで、水質が汚染されないよう努力しています。



筑後川

臭いを無くすために

久留米工場では、臭いを無くすために蓄熱式燃焼脱臭処理装置（RTO）※を設置して、極力臭いを出さないようにしています。

※蓄熱式燃焼脱臭処理装置…排ガスを燃やし、臭いの成分を減らす装置



蓄熱式燃焼脱臭処理装置

地域貢献活動について

久留米工場では、操業当初から様々な地域貢献活動が行われてきました。

昔

ブリヂストン創業者、石橋正二郎は久留米出身とのこともあり、久留米発展を強く望み、たくさんの施設を寄贈しました。彼ゆかりの施設をご紹介します。



石橋文化センター



石橋正二郎が久留米を明るくするため、1956年建設・寄贈しました。センター内には、石橋美術館、石橋文化ホール、図書館などがあり、久留米になくてはならない存在となっています。石橋文化センター正門壁面には、「世の人々の楽しみと幸福の為に」という正二郎の言葉が刻まれています。

石橋迎賓館

1933年に石橋家の私邸として建設された石橋迎賓館は、現在も久留米を訪れる外国からの要人を含め、来客に対する接待の場として使用されています。



教育関連

石橋正二郎は、久留米の文化、教育、福祉のために積極的な支援を行っており、久留米大学の土地と建物も1928年に寄贈しました。また、市内の小、中学校21校（当時の全小中学校）へプールを寄贈しました。

千栄禅寺、梅林寺、久留米城址（篠山城）内の有馬記念館など、他にも様々な施設の改修・寄贈・寄進を行っています。詳細は8ページのマップをご覧ください。



現在も、様々な地域貢献活動を行っています。

市内の小学校に桜の木を寄贈



従業員が親子で植樹することもあります



子どもたちからのお礼の手紙

久留米工場では、2007年3月から、市内の小学校の桜の木の減少を理由に、久留米市内の小学校に毎年桜を寄贈し、従業員が植樹を行っています。2009年は14校へ寄贈予定で、累計で35校となる見込みです。

ブリヂストン吹奏楽団久留米

ブリヂストン吹奏楽団久留米は1955年に従業員で結成されました。今でも定期的に地域の方々のために演奏会を開いたり、全日本吹奏楽コンクールでは、通算26回もの金賞を受賞しています。



地域清掃活動



久留米工場では、毎月2回、工場及び工場周辺の清掃活動を行っています。また、久留米市内の中心地や筑後川周辺の清掃、筑後川花火大会後のボランティア清掃活動なども行っています。

近隣小学校への出前教育

2年前から市内の小学校に科学学習の講師として招かれ、環境教育を行っています。タイヤが出来るまでの流れや、ゴムの性質、廃棄物をリサイクルしてできた製品の紹介などを行います。また、その際には、家族でドライブに出掛ける前にタイヤの空気圧のチェックや大きなキズが無いかなどの安全点検をして下さい、という呼び掛けも実施しています。



久留米市街地マップ



■：ブリヂストン、
石橋正二郎所
縁の地

終わりに

みなさん、久留米工場が何を作っている工場かお分かりいただけましたか。また、環境活動や地域貢献にも積極的に取り組んでいることがお分かりいただけたかと思います。今回、見学やインタビューをして、久留米工場は地域とともに発展してきたことが分かりました。また、久留米工場の従業員の方々は地域と工場の繋がりを非常に大切に考えていると感じました。

何か疑問に思うことがあれば、ぜひ久留米工場に聞いてみてください。また、久留米市街地マップを載せたので時間があればブリヂストン、石橋正二郎所縁の地を訪れてみてください。



京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻
修士一回生 門 信行

株式会社ブリヂストン

環境推進部
〒187-8531 東京都小平市小川東町3丁目1番地1号
TEL:042-342-6246
<http://www.bridgestone.co.jp>

久留米工場
〒830-0028 福岡県久留米市京町105
TEL:0942-33-0112

久留米工場の詳しいデータはこちら
<http://www.bridgestone.co.jp/eco/>
→CSR レポート→Web 版→環境データ→国内拠点データ